

第4回 「野のはな」 総会

2004年10月30日(土)午後1時より 金城大学E3号館教育情報東1Fラウンジにて開催

生活環境学部長・藤城榮一教授より薬学部が2005年新たに開設されるお話や、1962年発足した家政学部は2005年3月でその名を閉じるが家政の伝統は受け継がれる事を希望し、「野のはな」のさらなる発展を祈るとのご祝辞を頂戴し、速やかな議事進行の後、能楽笛方藤田流十一世家元藤田六郎兵衛氏によるトーク&ライブを楽しみました。後のティーパーティーも90名の出席者で盛り上がり、和気あいの懇親会に、学園は“心のふるさと”と改めて想う日となりました。近藤博信教授、青山喜久子教授もご出席下さいました。



講演会「能楽笛方藤田六郎兵衛氏によるトーク&ライブ」



今回は能楽笛方藤田流十一世家元 藤田六郎兵衛氏をお招きし、トーク&ライブの形式でお話と笛の演奏を聞かせていただきました。藤田流は徳川二代将軍秀忠の命を受け、京都から尾張に招かれた初代より始まる400年以上続く家柄で、現在の氏が十一代目となります。

演奏に使用された笛は初代より受け継がれ約430年前のものだそうですが、毎日息を通し、手に触れることにより楽器としての価値を高めていると伺いました。総会では、能 翁より“鈴の段”と“獅子”をご披露して

いただき、澄み渡る独特の音色で迫力のある素晴らしい演奏を聞かせてくださいました。

氏は幼少の頃より先代である祖父の指導のもとに、笛の演奏を理論だけではなく、反復練習で厳しく身につけられたそうです。

高校、大学ではクラシックの音楽を学ばれたり、ミュージカルに出演されたりと幅広い経験が現在の多彩なご活躍の基礎になっているとのこと、氏は能を鑑賞するのに特別な勉強は必要なく、面に興味がある方は面を見て、衣装に興味のある方は衣装を、舞に興味のある方は舞に注目し、自分にあった楽しみ方をすれば良いとおっしゃいました。面白かったとか、感動する心が大切であり、特に子供のうちから豊富な体験を共有することが、物事に対してたくさんものさしを持つことにつながり、将来芸術を楽しむ基礎を作ることになると述べられました。

多くの芸術を体験していくうちに自分にあったものを見つけて下さいと締めくくられました。一同美しい音色と、興味深いお話に魅了されました。



新潟中越地震募金ご協力ありがとうございました。総会の折、有志の発案で参加者より54,900円集まり、被災地へ寄附させていただきました。(11月2日中日新聞朝刊に掲載)

ご挨拶

野のはな会長 長瀬由子

金城台を登った青春時代が色焦ることなく時を越えて輝き続け、皆様ご活躍、実践の原動力となっていると存じます。同じ環境で学んだ先輩、後輩と共に母校のお手伝い出来ます事は光栄であり、大きな喜びでございます。お互いの交友と教養を高める同窓会として「野のはな」が益々充実した輪になります様一層のお力添え宜しく御願ひ申し上げます。

